

楽しく使おう英英辞典 ～高校での学習につながる、英英辞典の試験的活用～

A Report on A Trial Use of an English-English Dictionary for the 3rd Years

西平美保

Miho NISHIHARA

要 旨

本稿は、この3月に卒業した中学3年生を対象に行った、英英辞典の活用法についての一連の特設授業の実践報告である。

この授業の目的は、生徒たちが自分の辞書の使い方を改めて見直すこと、英和辞典や和英辞典との違いや日本語の国語辞典との類似性を理解すること、英語の品詞の概念を再認識すること、英英辞典の辞書機能以外の活用法を知り、卒業後の自立的な英語学習に役立てる契機を得ることである。

また、この授業を計画した動機としては、初中級の英語学習者でも楽しく使える英英辞典 Collins COBUILD Primary Learner's Dictionary (3rd Edition)を安価に手軽に入手できることを知り、後置修飾の文法がほぼ既習となっている段階である中3冬の生徒たちに、英英辞典が一種の読み物として使えることを知ってほしいと思ったことがまず初めにある。そして、この英英辞典との出会いを好機ととらえ、さらに前述のさまざまな目的を持たせた特設授業を計画することとなった。

辞書指導に関しては、中1の入門期に英和辞典と和英辞典の紹介をしたあとは、中2の春に使用教科書 TOTAL ENGLISH 2の単元で辞書の使い方を外観し、そのほかには、中1～中2の長期休暇(全6回)ごとに英和辞典を使う回数を増やすことを目的の1つとした課題を出し、あとは生徒個人の活用に任せるにとどまっていた。そこで、これを機会に英和辞典の使い方を振り返ることもねらいの1つとした。また、英語を日本語で説明した辞書と、英語を英語で(日本語を日本語で)説明した辞書との違いを理解してもらうことや、使用した英英辞典が小学校1年生に相当する Age7用のものであることから、英英辞典や国語辞典は理解可能な語彙数に応じた編纂になっていることに気付いてもらうことなどもねらってみた。

キーワード：辞書指導 興味・関心 自立的学習 自己調整的学習 協働的学習 母語と外国語 個人差

I 本実践の動機

Collins COBUILD Primary Dictionary については、2007年ごろ Age10用をたまたま書店で見つけ、その一部のページのコピーを、辞書指導を題材とした校内研究授業で使ったことがあった。説明の仕方や発音の表記方法などが母語学習者を対象とした辞書ならではのものであり、英語の辞書といえば英語を日本語で説明した英和辞典しか思い浮かばない生徒には、その存在そのものが新鮮に映るのではないかと考えたからである。2年の教科書には辞書指導の単元があり、この授業はそれに関連させたものだったが、英語を英語で説明してある辞書は中2の生徒には難易度が高かったようで、授業者が期待したような(「これ、おもしろい!」)と思ってもらえるような)反応は得られなかった。その後、

その辞書は書店から消え、ネット通販でも類似の辞書しか見つけられなかった。

日本で入手できる英英辞典とえば、高校卒業レベル以上の中級後半～上級用のものが一般的であり、語彙数も5～10万語と多く、文字も細かく辞書によっては紙も大変薄く、中高生が使ってみたくて思えるようなものは皆無だった。その状況は、“英英辞典は大人向け、上級英語学習者向け”という固定観念を生み出す原因ともなっていたように思う。

ネイティブの小学生向けの英英辞典が日本の一般書店で売られるようになったのは、相応の需要があったからだろうと考えられる。帰国生や日本のインターナショナルスクールに通う生徒などの存在も関係しているだろうし、そういった辞書が中級以上の英語学習に活用できると気づいた人の要望であったり等が考えられる。とはいえ、一度に1学年分100冊以上も購入するためには海外発注する必要があり、返品等が発生した場合の面倒を考えると、生徒に使わせるにはハードルが高かった。

そんな中、2019年に、Collins COBUILD Primary Learners's Dictionary 3rd edition – for learners using English at school – (対象年齢 Age7) が書店に平積みされているのを見つけた。イギリスで出版された輸入版に並んで、中身が全く同じで日本人学習者用に活用法のリーフレットが挟んである、桐原書店が販売するものが置かれていたわけだが、初級学習者向けの英英辞典を国内で1度に時間をかけずに100冊以上調達でき、乱丁落丁による返品等にも容易に対応してもらえるといった“使いやすい上に入手しやすい”ことを考えると、大変画期的であると思った。また、ケースの表紙には「CEFR* A1～B1」と対象ユーザーのレベルも書かれており親切であると思った。(＊ヨーロッパ言語共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment)

ネイティブの小学生用の英語の読み物や辞書は、どんなに語彙数が少ないものでも、文法事項においては関係詞や分詞などの後置修飾や現在完了が当然のように使われており、初級の学習者には意外と難しい。しかし、ちょうど中3卒業前には英語学習の文法の基礎はほぼ終えている状態であるため、この英英辞典を使う授業も成り立つであろうと考え、全5回の特設授業を計画するに至った。

実は生徒は、英英辞典の記述には若干のなじみがある。それは、英語のテスト問題などで英単語を英語で説明した問題に一度は触れたことがあるからである。この授業を実施していた最中にも、自分が受験した高校の入試問題に英英辞典の説明を使用した問題が出たと喜んでいた生徒もいた。受験に役立つかどうかは別としても、英語を英語で説明したものに日頃から慣れておくことは、自分の英語での表現の幅を広げたり、英単語の意味を正確に理解したりする必要が出てくる中級以上の英語学習に役立つであろうし、それゆえ高校英語学習への橋渡しになると考えた。

II 授業の目的

本授業における生徒の学習の目的は以下の通りである。

1. 英和辞典(紙、電子辞書)の使い方を改めて見直す

中学入学と同時に紙の辞書を買うように指導しているが、実際、英語学習のたびに使っているかというところでもない。教科書の巻末の簡易辞書や、教材の欄外の説明、電子辞書などで手軽に日本語の意味を知ることができるからである。

そこでこれを機に、あらためて紙の英和辞典の見方や選び方を伝えることにした。辞書の収録語彙数と厚さとの関係、大見出し・中見出し・小見出し、それぞれの語の重要性の違い、単語の意味とと

もに併記されている熟語の豊富さ、等である。また、中学生用の辞書の収録語彙（2万語台）で市販の高校生用の単語集の語彙は十分まかなえていること、巻末には高校以上で覚えるべき不規則変化動詞一覧も付いていること、地図や世界の使用言語一覧などの付録も便利であること、辞書を選ぶときは利き手でない方の片手で無理なく持てる大きさと重さのものを選ぶこと、などである。

2. 外国語学習用の辞書（英和辞典、和英辞典）と、母語を母語で説明した辞書（英英辞典や国語辞典）との違いを理解する

外国語の辞書は、母語一語で簡潔に説明されていることが多いが、これは、利用者の母語が大人並みに完成されていることが前提となっている。“economy”を引いて“経済”と書かれているのを読んですぐに意味がわかるのは“経済”の意味がわかっているからであり、“経済”の意味がわからない人は、それを説明する国語辞典が必要となり、さらに、大人向けの国語辞典でわからない子どもは相応のレベルの国語辞典で調べることになる・・・といった、自明ではあるが気づきにくいことを、改めて認識してもらいたかった。そのために、幼児向けや中学生向けの国語辞典、大人向けの英英辞典などとの比較も行った。

3. 英語の品詞の概念を再認識する

生徒は中学3年間の英語学習の中で、英語の品詞の概念はおよそつかめているが、頭の中に日本語の品詞の概念もあるために、動詞、名詞、形容詞の区別、特に動詞と形容詞の混乱が起きることがある。たとえば生徒は、like と favorite を品詞の区別なく使うことがあるが、like の対訳に「好む」だけでなく「好きだ」といった日本語の形容動詞的なものがあったり、favorite の対訳に「お気に入りの」だけでなく「大好きな」があったりするために、混乱すると思われる。ところが英英辞典を引くと、like の説明は to think a thing or a person is interesting, enjoyable or attractive というように to (do) で始まり、favorite は used for describing the thing or person that you like more than all the others というように to (do) で始まってはいない、ということで、明確な差異を再認識することができるのである。

英英辞典の説明を読むと、品詞固有の説明の仕方に気づく。動詞は不定詞の形 to (do) で書かれており、形容詞は分詞の形（～ing, ～ed）で書かれていることが多く、名詞は a thing や a person、あるいは別の名詞そのもので始まっている。例を挙げると、amaze(動詞)は to surprise someone very much、amazement(名詞)は the feeling you have when something surprises you very much、amazing(形容詞)は very surprising, in a way that you like である。また、動詞の turn は to move in a different direction、名詞の turn は a move in a different direction となっている。このように、日本語を介在させない英英辞典の説明が、英語の品詞の理解には一役買うようである。

4. 辞書としての使用以外での英英辞典の活用法

自分が意味をよく知っている単語を英英辞典で引いてみると、当たり前のことを様々な観点から説明していたり、英和辞典の日本語訳を通じて理解していたのとは異なる説明をしていたり、日本語にはない発想で説明していたりするのに触れて、新鮮な驚きを覚えることがある。生徒にもそれを味わってもらい、英英辞典を辞書として使うのではなく、読む楽しみを体験してほしいと考えた。意味がわかっている単語の英語の説明を読む楽しさは、日本語で既にその内容をよく知っている物語の英語版を読み進める楽しさとよく似ている。何日にも渡ってストーリーを追うのが苦手な生徒でも、興味のある単語だけをつまみ食いできる手軽さは、辞書ならではのものである。

Ⅲ 授業の内容

1. 授業計画

この授業は3年生の高校入試の受験期である1～2月に実施した。受験で欠席する生徒がいることを前提とし、また、直前の入試問題演習を行う時間や、「弱形」のリスニングを集中的に特訓する時間もとりつつ計画を立てた。

時	50分授業のうち約35分の内容 (本実践)	約15分の内容
第1時	How to use a dictionary? (1) ・英和辞典を速く引くには? ・英和辞典の“知っ得”情報	弱形リスニング練習
第2時	How to use a dictionary? (2) ・英和辞典を使いこなす～オリンピック競技名に挑戦～	弱形リスニング練習
第3時	How to use a dictionary? (3) ・英和辞典と英英辞典を比べてみよう	・英英辞典に挑戦
第4時	How to use a dictionary? (4) ・国語辞典との比較 ・英英辞典の役立ち情報 ・品詞をマスターしよう	高校入試長文問題演習
第5時	How to use a dictionary? (5) ・英英辞典で後置修飾に強くなる	高校入試長文問題演習

2. 授業内容

(1) 第1時 How To Use A Dictionary? (1)

英和辞典を引くスピードを上げるコツを学び、辞書のその他の活用法を知る授業である。具体的な内容は以下の通りである。

①辞書は片手で持てるものを

辞書を両手で持って目当ての単語を探す生徒が多い。いちいち鉛筆や辞書を置いたり持ち上げたりする時間を短縮するために、また、調べた単語に目印を付けたり、辞書を見ながらノートに文字を書いたりするためにも、利き手は空いている方が望ましい。辞書は利き手以外の片手で楽に持つことができ、利き手は辞書に触れないか、多少添えるくらいが理想である。購入するときのポイントの1つでもある。高校入学時に新たに高校生用の厚みのある辞書を買おうとする生徒も多いので、「大きくて重い辞書は使うのが嫌になってしまうのでやめた方がよい」「中学生用の辞書(約2万語収録)でも、全部の単語を知っている高校生はほぼいない」「中学生用の辞書を単語帳代わりに制覇して、その他は電子辞書で補うのも十分」と、まずは辞書の購入についてのアドバイスした。

②裁断面にA～Zが書かれているか

裁断面にアルファベットが書かれていない辞書を使っている生徒もいる。A～Zが書かれていないと調べるスピードが格段に落ちるので、自分でペンで書くようアドバイスした。

③あなたのアルファベット順は完璧か?

生徒にアルファベット順を言わせてみると、中3段階でも、A～Gまでは快調だがL, M, N以降が曖昧になる確率が高いことがわかった。どこで詰まるかは個人によって異なるが、誰でも苦手箇所があるようである。AからZまですらすら言えなくても、「この文字はこの文字より早く出てくる」「この文字はこの文字よりも後だ」といった確かな感覚が身につけば辞書を引くスピードは格段に上がる。自分のアルファベット順の曖昧さを自覚してもらうために、複数の単語を一度に提示し、

生徒はそれを見て各単語に順番をつける早さを競うことを行った。できた生徒から挙手してもらっただけの単純なものだったが、ゲーム感覚で楽しく取り組むことができていた。

あ	4語ソート	narrow, permanent, operate, mountain (1文字目 n / p / o / m の順)
い	5語ソート	Istanbul, knapsack, Islam, gorgeous, Israel (1文字目 g / i / k の順、2文字目 n / o / s の順)
う	6語ソート	weight, trigger, xylophone, urban, yawn, verb (1文字目 t / u / v / w / x / y の順)
え	7語ソート	pollen, polish, polo, polite, ponytail, Poland, popcorn (3文字目 l / n / p の順、4文字目 a / i / l / o / y の順)
お	8語ソート	abroad, aborigine, absorb, abacus, abstract, absence, aboard, abrupt (3文字目 a / o / r / s の順、4文字目 a / r の順、o / u の順、e / o / t の順)
か	1語見つけ	Ferris wheel
き	5語見つけ	lounge, rectangle, microwave, telegram, orchard
く	10語見つけ	pursuit, audience nitrogen grumble, ignore, population, oxygen, prejudice, hydrogen, carbon

ゲーム(あ)は既習語のみ、(い)～(お)は未習語を中心に選び、答え合わせとともに意味も確認した。また、順番並べだけでは飽きるので、(か)～(く)では単語の意味を調べる早さを競うものにした。生徒が迷いやすい l, m, n 以降の文字の入っている語を選び、また、敢えて「英語ではこう言うのか」「これはカタカナで知っている」という親近感を伴う身近な文物を選んだ。辞書検索が目的なので、意味を知っていてもその単語を見つけてもらうようにした。かかった時間を計測して単語数で割り、自分が1語引くのにかかるおよその時間を知っておくということも行った。

④辞書の“お役立ち情報”を活用する

購入時以来あらためて見たこともないであろう、巻頭部分、巻末部分、各ページのページ番号欄、辞書の途中にある特集ページ、等々に目を向けてもらった。辞書によって様々であるが、中高で覚えるべき不規則動詞変化表、形容詞・副詞の「比較級・最上級」の不規則変化一覧表、地図、国別言語一覧、英語文法概要、日常生活のジャンル別単語一覧、基数・序数一覧、通貨や度量衡の単位換算一覧、ことわざ一覧、簡単な classroom English 一覧、などが付録として付いている場合が多い。誤用例が付いている辞書も多い。辞書には役に立つ情報が凝縮されていることを知っておくことは、英語学習者にとって重要である。

(2) 第2時 How To Use A Dictionary? (2) ■参考【資料1】

第1時に続き辞書を引く速度を上げることを目的とし、かつ、オリンピックの競技名を確認することを通して、綴りを類推しながら辞書を引くコツを身につけることを目的とした授業である。

ちょうど東京オリンピックが話題になっている時期でもあり、最近ではテレビ中継にも英語の競技名が併記されているので、生徒の興味関心を満たすためと、オリンピック観戦時の「英語名を知っている満足感」を味わってもらうためにこの題材を選んだ。前半後半とも4名前後のグループを組み、計時をして速さを競い、ゲーム感覚で楽しめる授業にした。

<前半>

音声だけでは何となく知っていて綴りがあいまい、しかも意味もあいまいか不明、そういう単語を調べる必要に迫られることはよくある。その適例が和製英語である。競技名のほとんどは英語由来であり、日本語の中にすでにカタカナ表記の外来語として定着しているが、それゆえに却って元の英語の綴りを辿るのが難しい。例えば「カヌー」の場合、語頭文字としては k, c, chの3つが考えられるか

[資料 1]

3年英語

2020.1.25

How To Use A Dictionary ? (2)



頑張れ受験生!

1. 辞書を使って、オリンピックの競技名を英語で正確に書いてみよう。【Group Work】

バドミントン	badminton
野球	baseball
ソフトボール	softball
バスケットボール	basketball
バレーボール	volleyball
テニス	teniss
卓球	ping-pong/table tennis
ハンドボール	handball
ホッケー	hockey
ラグビー	rugby
ゴルフ	golf
サッカー	soccer
空手	Karate
サーフィン	surfing
スケートボード	skateboarding
スポーツクライミング	Sport (climbing)
ボルダリング	Bouldering
リード	Lead
スピード	Speed

ボクシング	boxing
フェンシング	fencing
柔道	Judo
レスリング	wrestling
テコンドー	Taekwondo
近代五種	Modern Pentathlon
トライアスロン	T
ボート	Rowing
カヌー	Canoe
セーリング	Sailing
自転車競技	Cycling
馬術	Equestrian
アーチェリー	Archery
射撃	Shooting
ウェイトリフティング	Weight lifting

★班で手分けして、正確なスペリングを調べよう★

①左手に辞書、右手に鉛筆。
(縦向きの手) (縦向き)
②辞書は手から離さない。

()班 ()分 ()秒

2. 辞書を使って、オリンピックの競技名を英語で正確に書いてみよう。【Group Work】
(1) (2)は英語に直し、(3)は日本語に直しましょう。

(2) Swimming	
水泳	Swimming
自由形	(Free style)
背泳ぎ	(Back stroke)
平泳ぎ	(Breast stroke)
バタフライ	(B)
個人メドレー	(Individual) Medley
飛び込み	(Dive)
水球	(Water) (Po lo)
アーティスティック スイミング	Artistic Swimming
マラソン	スイミング Marathon Swimming
(3) 体操競技: Gymnastics Artistic	
体操	Gymnastics
(床)	Floor Exercises
(鞍馬)	Pommel Horse
(吊り輪)	Rings
(平均台)	Balance Beam
(跳馬)	Vault
(平行棒)	Parallel Bars
(段違い平行棒)	Uneven Parallel Bars
(鉄棒)	Horizontal Bars
(新体操)	Gymnastic Rhythmic
(トランポリン)	Trampoline

(1) 陸上競技 Athletics	
トラック	Track
短距離走	(Sprint)
中距離走	Middle-distance Running
長距離走	Long-distance Running
ハードル	(hurdle)
リレー	(relay)
3000m 障害	3000m Steeplechase
フィールド	Field
走り高跳び	(High) (Jump)
走り幅跳び	(Long) (Jump)
棒高跳び	(pole) (Vault)
三段跳び	(Triple) (Jumping)
やり投げ	Javelin Throw
(円盤) 投げ	Discus Throw
ハンマー投げ	(Hammer) Throw
(砲丸) 投げ	Shot Put
ロード	Road
競歩	(Walking)
マラソン	(Marathon)
トライアスロン	Triathlon

()班 ()分 ()秒

らである。和英辞典を使えば速いのは言うまでもないが、この授業は英和辞典を使うことが目的なので、あえて英和辞典のみで対応してもらった。

授業等で既に習った競技名でも、volleyball (バレーボール)、badminton (バドミントン)、wrestling (レスリング)などは自信を持って書けない生徒も多く、辞書で確認する意味があったようである。語頭の文字の段階で間違ったアルファベットを探していると大変時間がかかる、というのは電子辞書やウェブ辞書を使っても同様である。

<後半>

後半は少し難易度を上げて、日本語の競技名から語頭文字ヒント付きで英語の競技名を類推し、さらに綴りを類推する授業である。スポーツに詳しい生徒や帰国生の存在が助けにはなっていたが、彼らの誰も競技名を正確に書ける人はいなかったので、皆で知恵を出し合いながらチームワークで取り組んでいた。「ハードル」などは、日本語の「ハー」から思い描くのはどうやら har のようで、探してもなかなか見つからず、her でもなく hur だと分かったときには驚いていた。また、「リレー」に至っては、「リ」に r と l の可能性、「レ」も r と l の可能性があるために、なかなか当てることができず、やっと見つけたときには「こんなスペルなの？あり得ない！」と叫ぶ生徒もいた。発見する楽しさに競う楽しさも加わって、綴りを類推しながら辞書を引く練習ができたようである。

なお、授業の終わりには、インターネット情報を総合させた、オリンピック競技名一覧(日英)を配布した。

(3) 第3時 How To Use a Dictionary? (3) ■参考【資料2】

引き続き、冒頭 15 分ではウォーミングアップとして、辞書を引く速度を上げることと、綴りを類推するコツを身につけることを目的としたゲーム感覚の授業を行い、後半ではいよいよ英英辞典を配布して、実際に体験してみる授業を行った。前後半ともグループ学習である。

<前半>

4～5名のグループを組み、生徒は手分けして、途中まで綴りが書かれたものを見て、英和辞典から単語を探し当てる。今回は、野菜の名前、体の部位の名前、数学用語、天体関係の用語の4ジャンルとした。

<後半>

学年生徒全員分購入した Collins COBUILD ESSENTIAL LEARNER'S DICTIONARY (Collins COBUILD Primary Learner's Dictionary / 3rd Edition の桐原書店販売版)を配布し、名前を書かせ、まずは生徒に辞書の全体を眺めてもらうのに数分とった。次に、授業の前半で綴りを調べた単語(cabbage キャベツ、heart 心臓、cylinder 円柱、Mars 火星、など)が英英辞典ではどのように説明されているかを黙読してもらい、さらに、ワークシート上の単語だけでなく、「自分が意味をよく知っている簡単な単語」を任意に選び、英語でどのように説明してあるのかを知ってもらった。例えば、swim は to move through water by making movements with your arms and legs、wind(風)は air that moves、と自明のことが書かれてあるが、英英辞典とはそういうものであり、国語辞典の英語版であることをまずは理解してもらった。

英単語と英語の説明を結びつけたり、英語の説明から英単語を類推するテスト問題を一度は経験したことのある生徒たちなので、その経験を利用し、今回は逆に出题者となって英英辞典クイズを作ってもらった。

[資料 2]

3 年英語

2020.1.27

How To Use A Dictionary ? (3)



頑張れ受験生!

1. Warm-up ■ Change into English using an English-Japanese dictionary!

5分 30秒

[Group Work]

パセリ	parsley	心臓	heart
ほうれん草	spinach	肝臓	liver
セロリ	celery	胃	stomach
ブロッコリー	broccoli	筋肉	muscle
キャベツ	cabbage	腎臓	kidney
レタス	lettuce	喉(のど)	throat
ニンニク	garlic	肺	lung
キュウリ	cucumber	脳	brain
アボカド	avocado	かかと	heel
ズッキーニ	zucchini	つま先	toe
正方形	square	水星	Mercury
長方形	rectangle	金星	Venus
直線	(straight) line	火星	Mars
曲線	(curved) line	木星	Jupiter
円	circle	土星	Saturn
立方体	cube	天王星	Uranus
円柱	cylinder	海王星	Neptune
角錐(すい)	pyramid	冥王星	Pluto
円錐(すい)	cone	宇宙飛行士	astronaut
球	sphere	天文学者	astronomer

2. Try to use an English-English dictionary!

(1) Let's make a quiz!

noun (名詞)	feature · ink	担当(1~2名):
one of the light soft things that cover a bird's body		
verb (動詞)	love	担当(1~2名):
to care very much about someone		
adjective (形容詞)	equal	担当(1名)
the same in size, number or value		

- ①どの品詞を担当するか決める。②クイズにしたい単語を選ぶ。(教科書や英和辞典から探してもよい)。
 ③用紙には単語を記入せずに、説明文だけを記入する。④班員同士で順番にクイズの出し合いをする。
 ⑤正解が出たら単語を記入する。 ■ 注意 ■ 自分でも理解できないような説明のものは選ばない。

(2) Let's share a quiz!

Group ()	a person whose job is to treat people who are ill or injured	doctor
Group ()	a small round, sweet cake that often has fruit inside	muffin
Group ()	a small piece of paper that shows that you have paid to go somewhere or to do	ticket
Group ()	to make something go from your mouth down into your stomach	swallow
Group ()	a document that allows you to do an act of throwing or kicking a ball to someone on your team	pass
Group ()	intelligent and able to think and understand quickly	clever
Group ()		

- ①班で1つ代表「クイズ」を決めて発表する。②全員でクイズに解答する。

Class U No. 2b Name _____

■英英辞典を使ってみる（その1）

- ・ 4～5人グループで、名詞（1～2名）、動詞（1～2名）、形容詞（1名）の担当を決める。
- ・ 自分が意味を知っている単語が英英辞典でどう説明されているか、いくつか見比べ、クイズ（問題）として適切なものを頭の中で1つ決める。
- ・ ワークシートに英語の説明部分だけを書く。
- ・ グループ内で問題を出し合う。音声では理解しにくいので、ワークシートを見合って解答する。

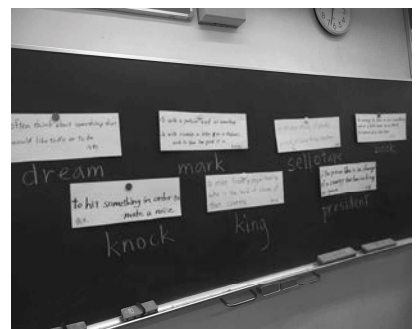
■英英辞典を使ってみる（その2）

- ・ グループで共有したあと、グループで1つ代表クイズを選び、画用紙に問題を書いて黒板に掲示。
- ・ 7グループがそれぞれ出した問題を、クラス全員で解答する。

生徒たちが出したクイズ（彼らが選んだ英英辞典の単語とその説明）の一例を挙げておく。

- ◆ to care very much about someone, or to have strong romantic feelings for them (love)
- ◆ intelligent and able to think and understand quickly (clever) ◆ a person whose job is to treat people who are ill or injured (doctor) ◆ an act of throwing or kicking a ball to someone on your team (shoot) ◆ to make something go from your mouth down into your stomach (drink) ◆ a small piece of paper that shows that you have paid to go somewhere or to do something (ticket) ◆ a small, round, sweet cake that often has fruit inside (muffin)
- ◆ opposite the side that most people write with (left) ◆ a picture that shows information about sets of numbers or measurement (graph) ◆ to suggest something in a way that is not direct (hint) ◆ to think a thing or a person is interesting, enjoyable or attractive (like)

単語によっては、英語の説明だけから類推するのが比較的容易なものや非常に難しいものがある、ということも生徒は理解したようである。例えば **between** は例文や図示を見れば容易に理解できる単語だが、英英辞典の **with one person or thing on one side of you and another person or thing on the other side of you** という説明を読んだだけで「前置詞の **between** だ！」と分かる生徒はまづいない。



(4) 第4時 How To Use A Dictionary? (4)

生徒が、英英辞典が国語辞典の英語版であることを理解することと、英英辞典の辞書以外の部分をすみずみまで読んで、英語ネイティブの7歳の子どもが使う辞書の内容を理解することが目的である。

①国語辞典と英英辞典の単語の説明の比較

ワークシートで、①2～6歳用の国語辞典に書かれてある「しまうま」の意味と、②中学生用の国

語辞典に書かれてある「縞馬」の意味を日本語で提示した。幼児用は辞書自体にイラストもついており、説明が非常に簡略化されているが、中学生用の辞書は説明が格段に詳しい。

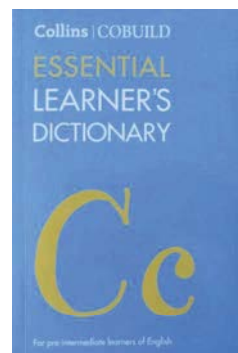
生徒には、自分たちが使っている英英辞典が7歳用であることを伝え、おそらく説明の詳細さは、やや①に近く②よりはだいぶ簡単であろうと想像させた上で **zebra** を引いてもらった。

- ◆ 2～6歳用の国語辞典／しまうま／くろと しろの しまもようが ある どうぶつ
- ◆ 中学生用の国語辞典／縞馬／アフリカの草原にすむウマ科の哺乳類。白または黄色のからだ全に黒色のしまがある。ゼブラ。
- ◆ 7歳用の英英辞典／ **zebra** / a wild horse with black and white stripes that lives in Africa

われわれの習得語彙数は、先進諸国レベルでは、就学前で約 5000 語、小学校卒業時で約 20,000 語、中学校卒業時で約 40,000 語、その後ゆるやかに伸びて専門用語等の習得により 50,000 語に達したり達しなかったりというのが一般的と言われている。つまり、中学生用の国語辞典の説明はネイティブの大人を納得させるレベルだということである。使用した英英辞典は収録語彙数が約 10,000 語（用例も含めて 20,000 語弱）であるので、小学校低学年向きであることが語彙数からも分かる。以上のような、発達段階と習得語彙集と辞書の収録語彙数の関係の説明も簡単に行った。

②英英辞典の基本的な使い方

桐原書店発売版には親切にも日本語で書かれた使い方リーフレットが挟んであるが、英英辞典本体の巻頭部分にも、使い方の手ほどきが平易な説明とともに書かれてある。とはいえ、全部英語なので生徒



はあまり熱心に読もうとはしない。そこで、品詞や **punctuation** のルールなど辞書を使用する上で重要な事項、および今後の英語学習において役に立つ巻末情報をワークシート記入方式でトピック的に取り上げた。

◆品詞

英語の品詞は英語で何というのか、辞書の巻頭部分から探して記入してもらった。多くの生徒が知っていたのは **verb** くらいで、他はほとんど知らなかった。**noun, preposition, conjunction** は雑学的に知っている生徒もけっこういた。帰国生が圧倒的によく知っていたのは **adjective, adverb** で、おそらく在外の小学校で習ってきたものと思われる。また、帰国生は英語の知識はあっても日本語の品詞名と結びつかない場合が多かった。

◆ punctuation (句読点法)

中1で、**period** (ピリオド), **comma** (カンマ), **question mark** (クエスチョンマーク), **exclamation mark** (エクスクラメーションマーク), **apostrophe** (アポストロフィ) をカタカナ読みで覚えるため、この5つについては全員の生徒が記号と読み方が一致した。**hyphen** (ハイフン)、**quotation marks** (クォーテーションマークス：この辞書には複数形で掲載) はやや記憶が怪しく、**colon** (コロン)、**semi-colon** (セミコロン) はほぼ全員が「よく見かけるし、コロン／セミコロンという名前は聞いたことがあるけど、どっちがどっちなのか、また意味の区別も知らない」という状況だった。英英辞典巻頭部の英語での説明は一見難しそうに見えるが、実は簡便な説明に平

易な例文が付いているので、腑に落ちる生徒も多かったようである。double quotation marks と single quotation marks は、日本語の「 」と『 』に相当することをこれまでの授業で説明していたが、改めて整理してもらった。

◆単数名詞、複数名詞

通常、英和辞典では、名詞、可算名詞、不可算名詞を、[名][可算][不可算]などの日本語の略称で表記したり、英英辞典の略号 (n) = noun、(c) = countable noun、(u) = uncountable noun で表記してあるが、この英英辞典では、名詞は、noun(名詞)、uncountable noun(不可算名詞)、plural noun(複数名詞) のいずれかに分類されていた。正確な分類が目的なのではなく、使用時の留意点という意味合いでの表記と考えられる。7歳の子どもでも区別してほしい最低限の分類なのかも知れない。

授業では、初めに以下のクイズとして出題し、答え合わせで英英辞典を引いてもらった。

* 次の単語を、noun (あ)、uncountable noun (い)、plural noun (う) に分類しよう。
 pizza (), privacy (), recreation (), snow (), pants ()
 gasoline (), schedule (), ice (), cloud (), scissors ()

③その他の“お役立ち情報”

< Key words > 英英辞典の巻末には約 1500 の Key words が載っている。ネイティブの7歳の子どもにとって重要な 1500 語は、初級を卒業する英語学習者にとっても重要であるはずなので、効率的な語彙習得には市販の単語集もよいがこういった辞書も有効活用できる。

< 不規則変化動詞 130 > 中学校では約 50 ～ 60 の不規則変化動詞を覚えるが、高校ではその倍の数を覚えるのが一般的である。一体どれだけ覚えればよいのかという先の見えない不安を解消していくのが、この7歳用の辞書に収められた不規則変化動詞一覧である。だいたい 120 前後知っていれば英語ネイティブの7歳児が学習や生活に困らないことが分かる。

< 専門用語一覧 > Technology, Geography, Language, Maths, Music, Science, History and Social Studies, Sport, Art の9ジャンルでよく使われる単語、連語、略称が一覧となっている。授業等で頻出する学習用語や専門用語がまとめられている。短期留学など英語で教科の授業を受ける機会がありそうな生徒には大変役に立つ。

< Classroom vocabulary > 英語圏の国の小学校でよく使われる先生の指示や質問、生徒の回答や質問の仕方が場面や機能ごとにまとめられていて分かり易い。

(5) 第5時 How To Use A Dictionary? (5) ■参考【資料3】

学習指導要領でも、英語の“後置修飾”に力を入れるよう示されているが、日本語と構造が全く異なる英語では、目的語が動詞の後に来る“SVO構造”に次いで、修飾部分が後続していく“後置修飾”が生徒の学習上のハードルになっている。この2大ハードルを乗り越えるには英語の構造に慣れるのが一番なのだが、SVO構造は全ての英文に当てはまるため、どんな英語の読み物でも数多く当たれば次第に慣れていくが、後置修飾はそれほど都合良く読み物の中に出てくるとは限らない。1年時では前置詞+名詞、2年時では不定詞や前置詞+動名詞、3年時では分詞や関係詞が出てくるので、その都度それに特化した練習はするが、後置修飾だけがランダムに集中的に出てくる学習材料はなかなかない。そんな悩みを解決してくれるのが英英辞典なのである。

英英辞典の単語の説明では、後置修飾を含む説明に遭遇することが非常に多い。特に名詞は、修飾

[資料3]

3年英語

2020.2.17



頑張れ受験生!

How To Use A Dictionary ? (5)

1. 次の説明は English-English Dictionary のものです。その単語の品詞を当てよう。

- (1) to use your voice in order to say something / to make a speech (s-) *speech* to-動詞
- (2) a flat piece of special glass that you can see yourself in (m-) *mirror*
- (3) moving or doing things with great speed (q-) *quick*
- (4) someone who you like and know well (f-) *friend*
- (5) to give people food and drinks / to help customers in a shop... (s-) *serve*
- (6) not having lived for very long (y-) *young*
- (7) to make a hole in the ground (d-) *dig*
- (8) frozen water (f-) *ice*
- (9) having a low temperature, but not cold (c-) *cold*
- (10) a white or grey thing in the sky that is made of drops of water (c-) *cloud*

noun (2)(4)(8)(10) verb (1)(5)(7) adjective (3)(6)(9)

2. English-English Dictionary では、関係詞が使われている説明が多いです。

* 関係代名詞... who (主格), whom (目的格), whose (所有格)

which (主格, 目的格)

that (主格, 目的格)

* 先行詞を含む関係代名詞... what (= the thing which に置き換えられます)

* 関係副詞..... where (先行詞が場所を表す名詞のときに使います)

when (先行詞が時を表す名詞のときに使います)

(1) 関係代名詞

□(r- ring) *ring*
a small circle of metal that you wear on your finger

□(p- pearl) *pearl*
hard, white, shiny round object that grows inside the shell of an oyster

□(d- doctor) *doctor*
a person whose job is to treat people who are ill or injured

(2) 関係副詞

□(s- school) *school*
a place where people go to learn
= in which people go to learn ※関係副詞は「前置詞+関係代名詞」で表せます。
= which people go to learn in

□(m- mosque) a building where Muslims go to pray* *mosque*
モスク

□(h- holiday) a time when you do not go to work or school *holiday*

□(b- break) a short period of time when you have a rest *break*

□(dawn 五) [ドーン] ※4文字です。漢字1字では? 「曉」
the time when the sky becomes light in the morning *dawn*

時間があれば Let's Try

① 関係代名詞の that が使われている単語を探して、説明も書いてみよう。
()

① 関係代名詞の whose が使われている単語を探して、説明も書いてみよう。
()

② 関係副詞の where や when が使われている単語を探して、説明も書いてみよう。
()

2. 英英辞典でも、英和辞典でも、辞書を引くときは前後の単語もチェックして「派生語」もセットで覚えるようにすると、(そのときはやや時間がかかって)あとあと楽です。

- (1) pursue [verb] 追う, 追求する →(*pursuit*) [uncountable noun] *pursuit*
- (2) industry [noun] →(*industrial*) [adjective] *industrial*
- (3) memory [noun] →(*memorialize*) [verb] *memorialize*
- (*memorial*) [adjective] *memorial*
- (4) final [adjective] 最後の, 最終の →(*finalist*) [noun] ※人を表す形
- (*finally*) [adverb]
- (5) real [adjective] 本物の.....
→(*really*) [adverb]
- (*realize*) [verb] →(*tear*) [noun]
- (*rear*) [noun] →(*ready*) [adjective]

部分が長くなればほぼ後置されると言ってもよい。辞書の収録語彙のうち圧倒的多数は名詞なので、英英辞典を使えば使うほど後置修飾を含んだ説明に出会えるというわけである。

①英語の説明から単語と品詞を当てる

前時の復習も兼ねて、10個の英語の説明を読んで名詞・動詞・形容詞に分類するクイズをやってもらった。語頭文字を頼りについでに単語を当ててもよいが、ここでの中心課題は、単語の説明の仕方に着目した品詞分類であるため、単語を当てるのは二の次にして、名詞・動詞・形容詞の区別をつけるためのヒントがどこにあるのかを考えてもらった。動詞の特徴は不定詞 to(do)で表されていること、名詞の特徴は先頭部分に(しばしば冠詞を含んだ)名詞があること、形容詞の特徴は～ingなどの分詞で表されていること、などに気づいてもらうことがねらいである。

②関係代名詞と関係副詞が使われているものに着目する

ここでは、後置修飾の中でも特に関係詞に着目した。関係詞を使った文は日本語話者にとって習得が難しいものの1つである。英語圏からの帰国生たちが(特に目的格の関係詞が省略されている文を)難なく使っているのを見て憧れ、自由英作文などでも意識的に使おうと努力した結果、自然に使えるようになる生徒も多い。肝心なことは、関係詞を使った文を大量に聞いたり読んだり、話したり書いたりすることなのである。その練習量を積むためにも英英辞典は有効である。

英英辞典では、関係代名詞と同じくらい頻繁に関係副詞に出くわす。1～2月時点の中3生にとっては、関係代名詞は既習事項であるため、英英辞典の説明が格好の復習材料だと考えたが、所有格の関係代名詞 whose や関係副詞は、現段階では中学校の学習指導要領外なので未習である。しかし、文法として習う以前に、豊富な例文に触れる方が使い方の感覚をつかみやすいのではないかと考え、それらも取り混ぜた問題を作った。

- ・ 関係代名詞 that, who, whose が使われている説明を読み、そこから単語を当てる。
- ・ 関係副詞 where, when が使われている説明を読み、そこから単語を当てる。
- ・ 単語の説明を読みながら関係詞の使い方に慣れる。
- ・ 最後に、英英辞典から that, whose, when, where が使われている説明を自分で探してみる。

③派生語も一緒に覚える

高校に進学した卒業生たちから「英語で落ちこぼれた」「英語がついていけない」「大量の単語が覚えられない」という声を毎年のように聞く。高校で習う文法は、中学の既習文法の多少延長線上にあるだけで、特に理解が困難なものがあるわけではない。おそらく落ちこぼれてしまうのは、膨大な量の新出単語を覚え、膨大な量の文章を読んだり書いたりすることに、ついていけなくなるからだと考え。そして、ついていけない原因の1つに語彙量の不足がある。

中学で習う英単語は身の回りにある言わばカタカナ日本語化している英語も多いため、ゼロから覚える単語は意外と少ないのである。a, the, I, my, me, TV, hat, cat などの平易すぎる語もカウントしての2,000語である。ところが、高校では日本語の意味の理解も覚束ない抽象度の高い語が数多く出てくる。いくら人生で最も記憶力が良い時期の生徒たちとはいえ、何の脈絡もなく暗記するには大変な苦勞がともなう。そこで、少しでも楽に単語を覚える方法の1つとして考えられるのが、「ついでに派生語も一緒に」覚えることである。家事をするときに「ついで家事」をやっておくとあとが楽なように、毎回少しずつ負荷をかけて“ついで暗記”を増やしておくのである。この“ついで暗記”に役立つのが アルファベット順に並んでいる辞書である。品詞を変えた単語が前後に一望できるので

大変便利である。(市販の単語集でも一緒に派生語が載っているが、編者の取捨選択が入るため、一部の掲載であることが多いように思う。全体像が見えてこそ、不安なく勉強できるのではなからうか。)

繰り返しになるが、この英英辞典はネイティブの7歳児用であるにも関わらず、全単語を知っている中高生はほぼいないであろう。そう考えると、ここに載っていない難解な語は後回しにして、まずはネイティブの小1生が覚えるべき単語を派生語ごと制覇することを目標にしてはどうだろうか、生徒には勧めた。初中級の英語学習者にとってはそれで必要十分であると考えている。難解な語を調べるには、ネット上の辞書や10万語近く収録された電子辞書を使えばよいのである。

IV 評価と課題

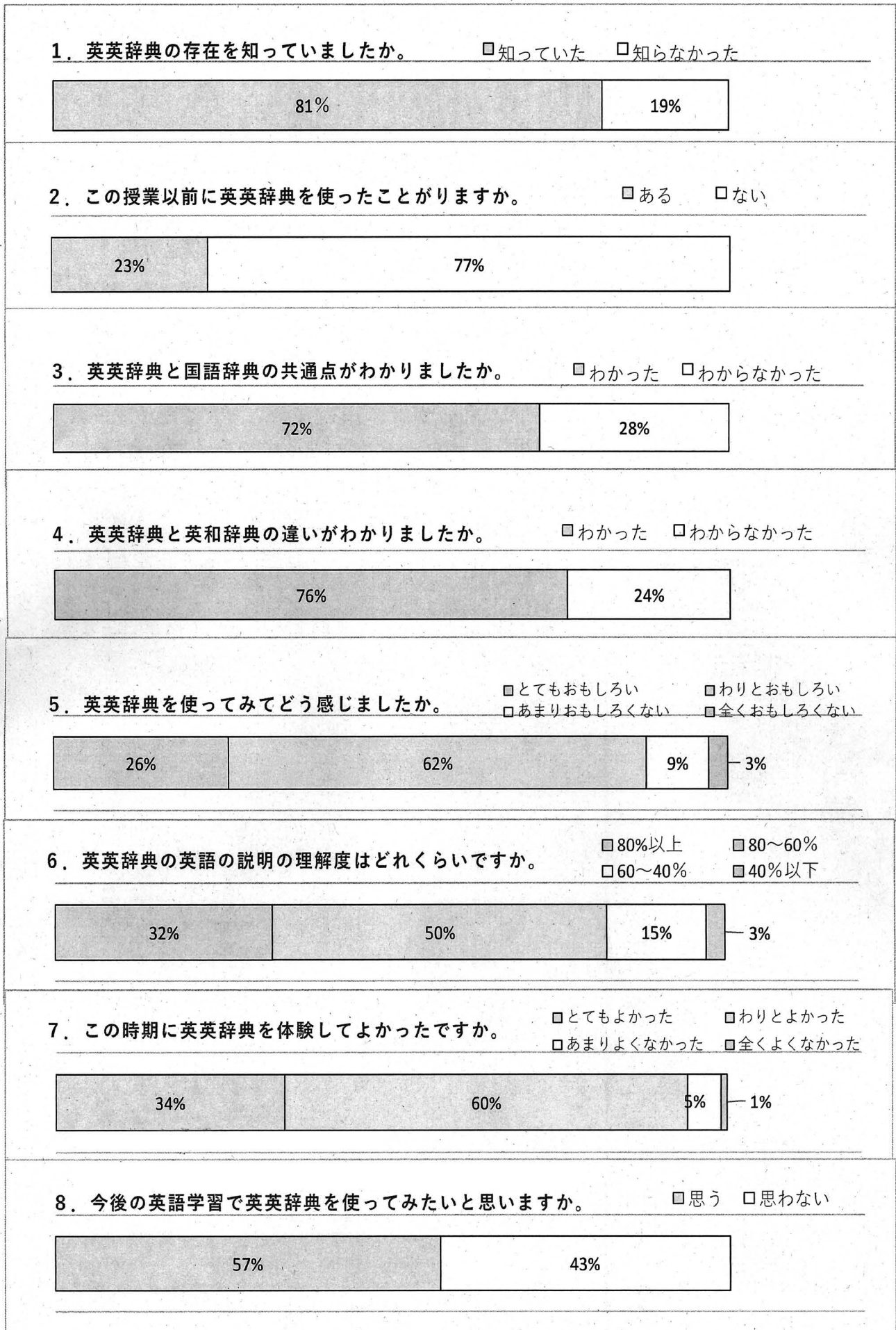
一連の授業を実施したあとに、以下の項目でアンケートを実施し、生徒に振り返りをしてもらった。高校受験の時期だったこともあり、回答したのは117名中108名である。■参考【資料4】

1. 英英辞典の存在は知っていましたか。(知っていた ・ 知らなかった)
2. 今回のシリーズの授業以前に、英英辞典を使ったことがありますか。
(ある ・ ない) ※ある場合は、いつ()どこで()
3. 英英辞典と国語辞典(=日語辞典)の共通点がわかりましたか。わかった人は、その共通点を簡単に説明してみてください。
(わかった ・ わからなかった) →[共通点を簡単に説明]
4. 英英辞典と英和辞典の違いがわかりましたか。わかった人は、その違いを簡単に説明してみてください。
(わかった ・ わからなかった) →[違いを簡単に説明]
5. 英英辞典を使ってみてどう感じましたか。
(とてもおもしろい ・ わりとおもしろい ・ あまりおもしろくない ・ 全くおもしろくない)
6. 英英辞典の英語の説明の理解度はどれくらいですか。
(80%以上 ・ 80~60% ・ 60~40% ・ 40%以下)
7. 中学三年のこの時期に、英英辞典を体験して良かったですか。
(とてもよかった ・ わりとよかった ・ あまりよくなかった ・ 全くよくなかった)
8. 今後の英語学習で、英英辞典を使ってみたいと思いますか。思う人は、利用方法のプランを書いてください。
(思う ・ 思わない) ★こういう風に使いたいというプランがあれば自由に書いてください。

1番の「英英辞典の存在を知っていたか」という項目については、81%の生徒が「知っていた」と答えた。また、2番の「この授業以前に使ったことがあるか」という項目では、23%(24名)の生徒が「ある」と答えた。具体的な内容を書いていた生徒のうち、「英語教室や塾で使用したことがある」と答えた生徒も少数いたが、多くは「電子辞書の英英辞典」を「家で」、しかも「遊びで」「ひまなときに」使ってみたというものだった。電子辞書がなければおそらく英英辞典など使うこともなかっただろうと考えると、様々な辞書や機能が入っている電子辞書の普及は学習者の動機を増やすことに一役買っていると言える。また、英語圏帰国生の場合は当然ながら「海外の小学校で使っていた」という回答だった。

3番の「英英辞典と国語辞典の共通点」、4番の「英英辞典と英和辞典の違い」については、両方とも7割以上の生徒が「理解した」と答えたが、シリーズを組んで授業を行った筆者としては、もう少し多く的人数が理解してほしかった。理解の徹底がはかれなかった理由の1つとしては、今回授業で使用した英英辞典がネイティブの7歳児向けのものであり、生徒が日常的に使用している国語辞典が大人向けのものであり、また、生徒が英語学習用に使用している英和辞典は初級から中級に至るまでレベルの開きがある、等のことがあるために、単純な比較がしにくかったということが挙げられる

[資料4]



と考えている。授業者側は、様々な辞書のレベルを理解した上で臨んだ授業だったが、生徒は、例えば英英辞典に関してはこの7歳児用のものしか知らない状態での比較となったからである。ちなみに、生徒の自由記述には以下のようなものがあった。

◆英英辞典と国語辞典の共通点◆

◆英英辞典は私たちが日日辞典を国語辞典として使っているように向こうの人たちが国語辞典として使っていることが分かった。◆同じ言語で説明されている。◆簡単な言葉を調べると難しい説明になっている。◆語句の後に簡単な単語で説明があり、その中で分からない語をまた引くことができる。◆辞書の構造 ◆自分が思いつかなかつた分かりやすい説明をしている単語もあれば、逆にわかりづらくなる説明のあるところ。◆順番。名詞一品詞一意味。◆その言葉の説明まで細かくしなきゃいけない。例えば英和なら right →右などだけど、国語だと右→北を向いたときに…みたい。◆その言葉の近い言葉でその言葉を説明している。◆抽象的なものを説明している部分はまわりくどいため逆にわかり辛い。◆特徴を書いたりすることで一言で説明されていることがない。◆とらえ方のイメージが書かれている。◆日本語のその意味を日本語で書いてあるのの英語版。◆ネイティブ向けに同じ言語で説明。◆回りくどい説明である点。◆むりやり感がある。◆易しい言葉を使っているところ。その事柄を理解していないことを前提に書かれている。◆わかりやすいように、別の言葉で言い換えている。

◆英英辞典と英和辞典の相違点◆

◆英→英：ネイティブが使う or 英→日：日本人が使う。◆英英辞典であれば英語を日本語に直した際のニュアンスの違いが生じなくて良い。◆英英辞典では英語の使い方がわかる。英和辞典では英語の意味がわかる。◆英英辞典は、ある程度語彙力がないと負のスパイラルに陥る。◆英英辞典は説明も英語だけど英和辞典は説明が日本語。◆英英は意味がわかるように簡単な表現をしているが、英和は日本語に書き換えたままの表現のまま表されている。◆英英は具体的。英和は翻訳している。◆英英は語句の意味を説明、英和は対応する語句だけ書かれている。◆英英を使うと英語でどう表すか知ることができる。◆英語で意味を説明している or 日本人の勉強向けに作られている。◆英語で説明されているか日本語で説明されているか。◆英語のニュアンスが感じとれるようになっている。英英は説明が長い英和は単語。◆英和と英英で同じ単語をひいても違う説明のことがある。◆英和は直訳で言っているけど、英英はまわりくどくいつてる。◆英和は日本語しか書いてない。具体的なその物に対する説明ではない。◆英和は日本語で端的に書かれている。◆簡単な単語の表現の仕方が英英だと理解不能なものが多くあった。

5番の「英英辞典を使ってみてどう感じましたか」という項目では、88%の生徒が「とてもおもしろい」「わりとおもしろい」と答えていた。6番の「英英辞典の英語の説明の理解度はどれくらいですか」とについては、32%の生徒が「80%以上」、50%の生徒が「60%以上」理解できたと答えており、生徒の自己申告なので実際の理解度は不明だが、少なくとも8割の生徒が「わりと読める」という印象を持っていることになる。また、7番の「中学三年のこの時期に、英英辞典を体験して良かったですか」という項目では、94%の生徒が「とてもよかった」「わりとよかった」と答えていた。これらのアンケート結果からは、本実践は英英辞典使用の導入としては成功したと言える。

8番の「今後の英語学習で英英辞典を使ってみたいと思いますか」とについては、57%が「思う」、43%が「思わない」と回答した。「こういう風に使いたいというプランがあれば自由に書いてください」という項目では、たとえ遠回りでも、自分なりに楽しんで自分のペースで使っていくことに前向きな回答が多かった。以下に例を挙げておく。

◆ I might use it sometimes in my life. ◆新しい単語を覚える時、説明のしかたとして共に覚える。◆新しい単語を学習したときに英語ではどう説明されているのかを調べる。◆1度やっているけれど自分が選んだ単語のクイズ。◆英英→英和 なるべく英英で引いて理解する。◆英語の映画は英語の字幕で見ると良いというように、覚えた単語を英語でどのようにして説明するのかを知ることにより定着させたい。◆英語の言葉を他の言葉を使って説明するとその参考にしたいと思う。◆英語の本を読んだときにわからない単語を調べる。◆英作文の参考に。◆英作文の練習時など。◆英単語帳に英語の説明を書く。◆英和辞典と併用。暇なときに読む。◆英和でわかりにくいとき見てみたい。◆学習には難しいと思うが、パラパラ暇なときに並べる？のは楽しいと思う。◆活用方法や使い方は良かったけれど少し量が多すぎたと思った。でも辞書を調べるとても良い練習になったので普段辞書を引かない私には良かった。◆紙の辞書は1度に多くの内容が目に入るから中1から使うべき。◆気軽に。◆ページ(紙質)が手になじまない! ◆自分が知っている言葉を調べて日本語の意味と紐付ける。◆自分の知っている単語をどうやって英語で説明するか知りたいとき。◆その単語について対話中に伝えたいとき(外国人) ◆ひまな時とか勉強にあきた時に。◆長文とかを読むときに解答を見る前に分からない単語をこれで確認しようと思う。◆どうやって言葉を使っているのかに興味がある。◆読解力を上げるために分からない言葉はこの辞書を使っていきたい。◆習った単語を調べてみる。◆日本語でどういう意味なのか理解できた英単語を英語でどう言うのかを知る! など。◆のんびり気になる単語を調べて前後の単語との関連を知りたい。◆ハングマンとか英語を使うゲームを all English でやってみたらぜったい楽しく使える! ◆引いた単語で英語と日本語の説明を比べる。◆暇な時に読む。◆普段から英英辞典を使っているためこれからも使っていきたい。利用方法は言葉を調べる時。◆勉強のときに補助教材として使いたい。◆やる気が出ている時に簡単な単語を調べる。◆洋書を読むとき。◆例文やどういう風に使えばいいのか知りたいとき。◆分からない単語を英英でひく→英和でひく、の繰り返し。英語教室でこうやって単語を学んでいるため。◆分からない単語を調べた後に英英辞典ではどう説明されているかをみてる。◆わからない単語をひいて、その文からまた分からない語をひく。◆分らなかったことから分かることをまで何でもかんでも調べてみたい。◆分らなかったら調べる。→その説明の中に分からない単語があったら、またその単語を調べる。◆私はこの先留学をしたいと考えているので、そこで分からない意味を調べるのに使いたいと思う。

相関を取ったわけではないので単なる感触だが、3年間教えてきた身としては、当然のことながら6番の「理解度」は英語の成績と関係があり、8番の「今後の学習で使いたいか」という項目では、英語の成績および男女差が関係しているように感じた。英英辞典は、英語の表現力を磨いたり、辞書そのものを楽しく読んだりするぶんには使ってみてみたいと思うようだが、短時間で意味を把握することが要求される速読や知識の獲得が要求される受験勉強などには、効率が悪く遠回りな印象があるのだと思われる。

最後に、本実践の目的に照らして全体を振り返ってみる。「英和辞典や和英辞典との違いや日本語の国語辞典との類似性を理解すること」については、辞書のレベルの違いをあまり考慮していなかったという条件設定のまずさから、思うような結果が得られなかった。また、「英語の品詞の概念を再認識すること」についてはアンケート項目に入れなかったが、生徒の授業中の反応からは、少なくとも使用頻度の高い品詞については既習単語と品詞の関連づけが出来ているように感じた。「生徒たちが自分の辞書の使い方を改めて見直すこと」や、「辞書として活用する以外の英英辞典の活用法を知り、卒業後の自律的な英語学習に役立てる契機を得ること」については、自由記述を読む限りでは、本実践が良い契機となったと考えている。